

♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2017年6月 ♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

こんにちは！6月はなんと40公演開催します！海外からの来演アーティストによるリサイタル、スイーツ公演も多数！そして毎年恒例のプレゼントチケットお得キャンペーンが開催されます！今年は10周年ということもあり更にお得な「スイーツ10」セットも販売いたします♪

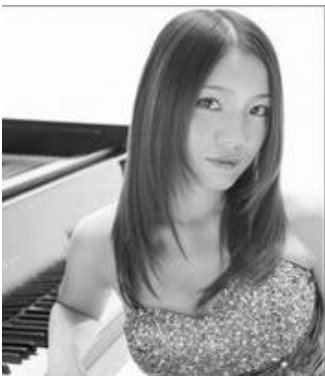
【文責:宗次ホール企画担当 廣田 政子(ひろた まさこ)】

「同じ空間を共有する人間を不思議な気分
させてくれるピアニスト。」

(日本コロムビアインタビューより)

長富 彩 ピアノ

6月11日(日)18:00開演 3,500円(学生2,100円) [指定]



“劇画から飛び出してきたかのような美しい容姿でありつつ、一旦ピアノの前に座れば、まるで別人のように情感を込めた演奏を披露する。”と表現される長富さん。

ピアノ伴奏者だった長富さんの母は、娘が“ピアノを弾きたい”と言い出したら厳しく指導してしまうであろうことを分かっていたからこそ、敢えて積極的にピアノへは導かなかったそう。しかし、幼稚園でピアノを弾いている友達を見て羨ましくなり、母に土下座をしながら「ピアノを教えて」とお願い。「いざ練習が始まると、母がスパルタの“先生”に。人気者になりたいが為だけにピアノを弾きたかったのに、全然楽しくなくて。練習はもう戦争。怖かった。」と長富さん。一方お母さんは「初めてですからわけもわからない弾き方をするのに、ひとつの音楽にはなっていた。これは将来ピアニストになるかもしれない…とその日に思いました」と仰います。

ピアノ学習者なら誰もが弾いた「ブルグミュラー」も2か月で24曲全てを修了し、ピアノ教室の指導者を驚かせた長富さん。しかし小学校に通う頃になっても楽譜は読めませんでした。「感覚で読んでいたんだと思います。」自由で感性豊かな長富さんは順位づけられるのも嫌い。「コンクール？勘弁して、そういうの”って”いう感じでした。」小学校4年生から師事した東京音大講師の御邊典一(おんべのりかず)氏の影響で、同校でも最難関の“ピアノ演奏家コース”を希望しますが、楽譜通りには弾かない自由な彼女の演奏に、入学試験後先生からは「合格すれば奇跡」と厳しい言葉。ですが蓋を開ければ合格したのは長富さん一人。彼女の能力があまりに突出していたため、他に合格者は出なかったのです。

「心で弾くということだけは、失いたくないですね。忙しさに追われたり、ピアノだけに向き合っている、いろいろな感情が生まれてきませんから、やりたいことは全部やって、後悔なく生きていきたい。経験からいろいろな感情を収穫して、その気持ちを素直にぶつける演奏を

していきたいと思っています。」

「日本人はベートーヴェンやその音楽と特別に
つながっているように感じます。」
(トリトン・アーツ・ネットワークインタビューより)

シューマン・クアルテット

6月14日(水)18:45開演 4,500円(学生2,700円) [指定]



前回の日本ツアーで日本の聴衆を虜にしたシューマン・クアルテット。「日本のお客様はとても集中して聴いてくださいました。なぜだかわからないのですが、多くの日本人はベートーヴェンやその音楽と特別につながっているように感じます。まるで本能的にベートーヴェンの言語とメッセージを理解しているかのよう。」と話すのは第2ヴァイオリンのケンさん。シューマン三兄弟の母親は日本人ピアニスト、父親ロベルト・シューマン(!)氏はデュッセルドルフ交響楽団のヴァイオリニストという音楽一家。

第1ヴァイオリンのエリックさんは、今回のプログラムに含まれる武満徹の「ランドスケープ」から、周文の「四季山水図屏風」や日本の昔話を思い出すそう。「大阪近郊で、箏と三味線の野外演奏に母が連れて行ってくれたのを覚えています。箏と三味線の音がとても気に入りました。あの音で、当時の雰囲気を出します。とても暑い日で、ムシムシして、虫の声もして。小さな川、アイスクリーム、冷たいお茶…そんな印象が、私達の記憶の中のランドスケープ(風景)を呼び起こします。」

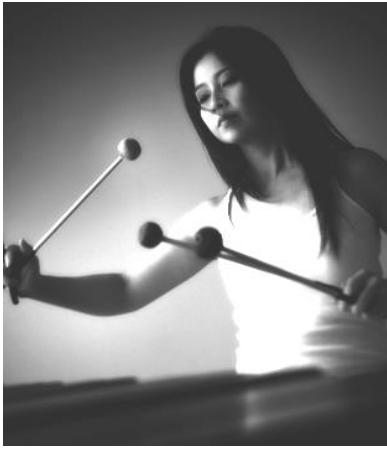
2016年シーズンからNYのリンカーン・センター室内楽協会のレジデント(国内外から一定期間アーティストを招聘して、滞在中の活動を支援する事業)を、そして2015/16はエステルハージ宮殿(埃)のレジデントを務めたりと、益々活躍する彼ら。「私たちの願いは、弦楽四重奏団として完全に独立することです。そのために、私たちの音楽表現と同様レパートリーも発展させていけたらと思っています。」

「ジャンルという既存の枠を取り除き、新しい聴き手に
出会いたい」 (テレビマンユニオンインタビューより)

加藤 訓子 マリンバ

6月21日(水)18:45開演 4,000円(学生2,400円) [指定]

J. S. バッハ、そして打楽器奏者にはお馴染みのペルト、ライヒ。全て加藤さんによる編曲！



「楽器自体は音を奏
 できるものなので、演奏
 家にとって“音”は命。
 身体から連動して音が出
 てくるので、(言い換え
 れば)身体が命。音が出
 て、その余韻が空
 中に出ていく…そんな
 動きは打楽器の“プリミ
 ティブ”(原始的、太古)
 さ、と共通しているよう

に思うので、そういう点を皆さんに届けられたらいいな。」と加藤さん。

マリンバは比較的新しい楽器で、どんどん改良が重ねられていきます。「前は、マリンバという楽器は限界があると感じていましたが、(楽器が常に改良されて)響きが豊かになったので、人の心を掴むことができるように、そして音楽の表現の幅を拓けられるようになった、とライヒやペルトをアレンジする自分のプロジェクトを通して、感じました。」と仰います。

YouTubeでも加藤さんの演奏動画を拝見することができますが、その音、余韻、弾き姿まで本当に情感豊かで音楽的。「バッハは本当にオールマイティ。楽器を鳴らして、リズムや音色…を更に高めたいな、と思った時にバッハをもっと掘り下げなきゃダメだと思って。バッハは神様だとよく言われるけれど、私にとっては実際に生きていた、一人の人間で。そんな人間が、人間の未来へ対する可能性みたいなものを書き残してくれたんだと感じています。一瞬でも良いから、音楽でそこに到達したい。」

「世界のマリンバ奏者35人」(アメリカ打楽器芸術協会)にも選出される加藤さんの演奏、お聴き逃しなく!

「私的な演奏。その構築の仕方は注意深いというより、寧ろ本能的。だが、そんなことは厭わない…緩徐楽章の旋律と伴奏、その絶妙なバランスは圧倒される程に、美しかった。」
 (ガーディアン誌)

フランソワ＝フレデリック・ギイピアノ

6月28日(水)18:45開演 4,000円(学生2,400円) [指定]



↑ ベートーヴェンの肖像画の前で

「10年後、どうい
 う場所に居たいで
 すか?」という質問
 に対して「ベートー
 ヴェンの作品を演
 奏できる場所であ
 れば、どこでも。」
 と答えるギイさん。

今回はベートーヴ

ェンの三大ピアノソナタ:悲愴、月光、熱情という最もキャッチーな演目で来演! 言わずと知れた名曲ばかりで

すが、誰もが知る有名な曲を弾くというのは難しいものです…!しかしこのギイさんはベートーヴェンのピアノソナタと協奏曲は全曲録音済、そして32曲全てのピアノソナタを10日間で弾ききる演奏会(!)をもこなし、高評価を連発する正に『ベートーヴェンのスペシャリスト』。

幼少の頃は自宅のアップライト・ピアノで、父が毎晩のように弾くショパンやグリーグ、シューマンのピアノを聴いては、真似をして覚えていったそうです。

ピアノを演奏する上で大切なこととして、「練習が不可欠なことは言うまでもないですが、オーケストラについての知識は必須。ピアノの音が只の“白黒”になってしまわないように。フル・オーケストラの音色を目指すこと」と仰るギイさん、ベートーヴェンは言うまでもなく、ワーグナー「ニーベルングの指環」、やブルックナー交響曲4, 5, 7, 8, 9番、そしてマーラーの交響曲等が特に好きで、愛聴されているそうです。

5月にはラ・フォル・ジュルネで活躍され、宗次公演の前には武蔵野市民文化会館でドレスデン・フィルと「皇帝」を共演なさいます。『極めて高貴で個性的』と評されるギイさんの演奏、是非聴きにいらしてください♪

「楽譜に込められた作曲家のメッセージを読み解き、それを伝えることが、作品に寄り添うことにつながります」
 (Hakuju Hall/インタビューより)

田部 京子 ピアノ

7月1日(土)18:00開演 4,000円(学生2,400円) [指定]



宗次ホールのように300席程のサイズの会場では、お客様との一体感を感じることができて、「演奏家冥利につきる」と言ってくださる田部さん。今回はシューベルトとベートーヴェンの晩年作品という、とても深いプロ

グラム。「晩年の作品には、年齢を重ねた分の軌跡がすべて内包されている感じがして、魅力的に思えます。わびしさや孤独感の中にも、ふと垣間見える若さを感じたり…」楽譜には作曲家のメッセージがすべて込められているので、それに寄り添い、作品の理解・解釈を掘り下げた上で、「私の感性で、聴いている人たちに伝えることが一番の私の個性であり、ある意味“私らしい音楽”になるのだと思っています。」と真摯にお話される田部さん。作品に込められた嘆きから、全てを達観したかのような穏やかさまで…晩年の作品に込められた作曲家達の人生を、聴いてみませんか。

チケットのご予約・お問い合わせは
 宗次ホールチケットセンターへ
 ☎ 052-265-1718(10時~18時)